

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

敦賀市立中郷小学校（福井県）

## 【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につながるクラウド活用

本校は今年度の研究主題を「自らの考えを『発信』し、互いに深め、高め合う子の育成～タブレットを効果的に活用した学びを通して～」とした。タブレットを情報の収集や分析、または自己の考えを発信するために使うことができれば、互いの意見の交流が生まれ、より学びが深まるであろうと仮説を立て、下記のような取り組みを行った。

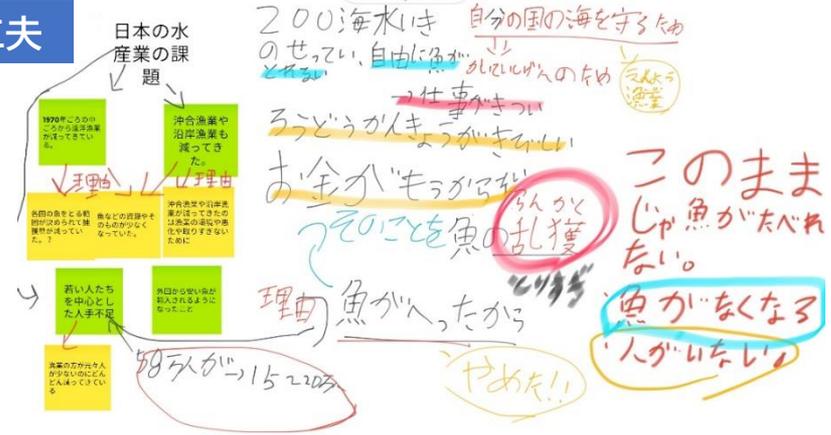
### A. Jamboardを活用し、学びを常時共有できるような工夫

思考段階から互いの学びの道筋を共有することで、児童の主体的な対話に繋がるようにしている。

また、付箋カードに短く書き表すことで、授業の要点をまとめることができる。

さらに、コンピュータスキルの差を埋めるべく、キーボード入力だけでなく、手書きもOKとし、自らの技能に応じてより早く簡単にまとめられる方を選択できるようにしている。

Jamboardにまとめるようになり、互いの意見を尊重したり、必要な情報を短くまとめられるようになった。しかしながら、それらのスキルは個人差があり、これらを等質にしていくという課題がある。



### B. 学習支援ソフトでふりかえりやまとめの工夫

本校では本体容量の小さいiPadを使用しており、無料アプリをインストールする量が限定されるため、ブラウザベースで動くものを利用するようにしている。

この学習支援ソフトでは、学びの履歴を自他で共有するために、一人に一つずつ割り当て、ふり返しとして活用するだけでなく、教科の見方・考え方ごとに列を作成し、各人がコメントを入力するなどして活用している。

学習支援ソフトの機能の一つとしてリアクションボタンやコメントを書きこめることから、他者からの反応も見ることができるようになり、より分かりやすくまとめを書こうという意識が高まってきた。ただ、元々の文章力により、コメント力や文量に差があり、これらは文章力を引き上げる必要があると考えられる。



## リーディングDXスクール事業【実践事例】

敦賀市立中郷小学校（福井県）

## 【取組内容②】 「インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施」

教材を視覚化することで、児童の関心が高まり、理解が深まると考えている。また、コロナウイルスのように感染症の流行により、校外学習が実施できない時にもオンラインでの見学や交流は効果があると考えている。本校での動画教材を使った取り組みは以下のようにになっている。

## 社会科・理科を中心とした動画視聴による学びの定着

動画は児童にとって視覚的にイメージしやすく、理解を促進したり、新しい気付きを持たせたりすることができると考えていることから、本校では、社会科や理科を中心とした活用が進んでいる。様々な教科・領域での活用も以下のように見られる。

- 国語…伝統文化や方言、古典などの学習
- 書写…道具の使い方やお手本の確認、学級内・学年内の児童による活動を録画して視聴
- 算数…教具の使用方法や図形の展開など
- 理科…模範実験や各グループごとの実験を録画して視聴
- 社会…遠方のため見学に行けない施設等の紹介動画や単元に即した動画の視聴
- 音楽…オーケストラなどの観賞
- 図工…絵の具セットや彫刻刀など、道具の使用方法や作り方
- 体育…器械運動などの学習前にイメージをつかませる

など

上記の動画の視聴に関してはNHK for SCHOOL を中心に、各種動画配信サービスも活用している。

上記の通り、児童にイメージを持たせやすいというだけでなく、教員側も、児童に持たせたいイメージを事前に把握しやすいという利点もあり、単元構成や単元の流れをイメージすることにも活用できている。

0123 社会「これからの工業生産とわたしたち」

1月23日

本時のめあて  
「東京都大田区にはどんな技術があるのか、まとめよう。」

本時の活動  
①教科書p50-p51を読んで、大田区の特つ特別な技術とはどんなものかをまとめる。  
なぜ、小さな工場が大きな工場につぶされなくてすんでいるのかを考える。  
②学級全体で共有する。  
③本時のまとめをする。

※普通： みたいは大工場と小さな町工場が張り合えるワケないよね？  
なのに、なぜ、小さな工場はやっていけるのだろうか？  
それを考えよう。

2024年1月22日 (22:00) .jpg  
画像

0123 社会 No1~No16  
Google Jamboard

0123 社会 No17~No32  
Google Jamboard

0123 社会まとめ  
Google スライド

東京都大田区の町工場 | NHK ...  
<https://www2.nhk.or.jp/school/eat>

↑「東京都大田区の中小工場の様子をNHK for SCHOOL」で確認させる授業構成

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

敦賀市立中郷小学校（福井県）

## 【取組内容③】 「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

学校での教育活動だけでなく、端末を持ち帰ることによって、学校での学習の補足や家庭学習の充実にも繋がると考えている。ここでは、端末を学校と児童とのコミュニケーションツールとして使用する例と、家庭学習での活用例を紹介する。

## A.チャットによる担任と児童とのやりとりで、家庭学習でのつまずきの解消を目指す

帰宅後、児童が宿題や学習におけるつまずきがあった場合、これまでだと保護者に確認したり、分からないままにしておいたりすることもあったが、タブレットをコミュニケーションツールとして使用することで、帰宅後でも担任に聞くことができる。

classroomのコメント機能やGoogle chatを使用することで、質疑応答を通して、つまずきを解消することができる。

右の画像は、Google chatを使つての算数の文章題における質問の様子であるが、同様のつまずきを他の児童も持っている、このchatでのやり取りに参加してきて、そのやりとりを通してつまずきを解消することがある。

特にGoogle chatの優れている部分は、質問する児童側も自分の聞きたい部分を画像として貼り付けることによって、ピンポイントに指導してもらうことである。また、指導する側も児童が理解できていない部分が把握できること、添削やアドバイスなどを画像化して添付し直して伝えることができる。

このように、その日のつまずきをその日のうちに解消することで、理解の定着を図るとともに、児童に安心感を与えることができる。

また、家庭学習をサポートしてくれる保護者からも、チャット機能を活用し、即時に学校からの指導支援が得られることにより、家庭学習が効果的に進むとの声が聞かれる。

10月6日 17:05

文章題のp23の①と②が分かりません。ヒントを教えてください。

画像をください。

10月6日 17:06

10月6日 17:06

これもさっきと同じですか？

1月12日 17:40

先生、この問題がわかりません。

(8) たかさんの学級には、学級園が20㎡あります。どうもこしを18㎡、残りにピーマンを植えました。

① どうもこしを植えた面積は、学級園全体の面積の何倍ですか。(式)

答

1月12日 17:46

もとの面積はどれでしょうか？

1月12日 17:47

この場合、ピーマンはミスリードを誘うためのフェイクです。

1月12日 17:49

20㎡ですか

👍 4 🗨️

1月12日 17:50

だとすると、比べる数が...？

## 【取組内容③】 「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

## B.動画機能を利用した、音読、リコーダー練習などの記録

これまで、音読活動やリコーダー練習などは各家庭での活動として各自に任せることになっていたが、タブレットのカメラ機能を使うことで各家庭での取り組みを確認し評価できるようになった。

特にリコーダーでは、音楽の時間に一人ずつ呼び、リコーダーのテストをする場合、残りの児童の活動などを考慮する必要があるが、カメラで動画撮影させておけば、リコーダーのテストの時間も解消できる。また、音だけでなく、指使いもしっかりと確認でき、児童一人ひとりにアドバイスを送ることもできる。このように動画を活用することにより、限られた時間の中で、評価と指導の両立が可能となる。

また、人前では緊張する児童などにも有効的であると考えている。

その他として、身近な人への職業に関するインタビューなどを動画に撮り、それをもとにまとめる(国語・総合的な学習の時間など)、自分の幼少の頃の様子をインタビューして、それをもとにまとめる(生活・保健体育など)、自分の周囲にある防火施設などを動画に収める(社会など)など、様々な活用方法が考えられる。同時に、これらの動画を撮る前に、動画撮影のマナーや注意事項を児童が考え話し合う場を持つことが、ネットリテラシーやネットモラルの主体的な学びに繋がると考えている。



↑ 画像は宿題としてのリコーダー練習の動画をスクリーンショットしたもの。

## 【取組内容④】 「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

## C. デジタルドリルの有効活用

デジタルドリルの良さは、瞬時に正解・不正解を判定してくれることである。特に低学年の場合、児童だけでは丸付けができないことが多いため、保護者に負担してもらうか、翌日担任によるチェックを待つことになる。しかしながら、デジタルドリルならば、その場で正解・不正解がわかるため、不正解ならばもう一度取り組ませることができる。

また、印刷の手間を省けること、何度でも取り組ませることができることなど、長所が多い。

本校では、ドリル的な反復練習としてしようする無料アプリを使用している。

漢字のドリルアプリの良い所は、出題される漢字を画面いっぱいに行けることである。また、漢字の成否判定は厳しめになっており、書き順が違う場合や一画分の長さが足りない場合などは正解判定を出さないことである。そのため、丁寧に書くまで正解にならない。

算数のドリルアプリは1～3年生までの四則計算であり、3年生までは反復練習用として、4年生以上ではかつての「100ます計算」のように活用することができる。

他にも小学校1年生から中学校3年生までの学習（数学は高1まで）を網羅する反復練習用サイトお使用している。国語・算数だけでなく、社会・理科・英語の問題もあり、アプリをダウンロードして端末のメモリを圧迫することなく、活用できる良サイトである。



↑ 漢字ドリルアプリ



↑ 算数ドリルアプリ

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

敦賀市立中郷小学校（福井県）

## 【取組内容⑤】 「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

DXが目指すものは、授業改革だけでなく校務における変革である。本校では、校務のDX化のために下記のように取り組んだ。

### A.共有ドライブで、職員会議資料の共有

本校では、昨年度から職員会議でのペーパーレス化に踏み切っている。個人の情報に係わることや重要な案件などを除き、資料を共有ドライブにアップロードしている。共有ドライブにアップロードすることによって、参加者は職員会議以前に内容を確認することができ会議時間を短縮することができる。また、提案者は資料印刷の時間を短縮することができ、作業を簡略化することができる。

職員会議後も、資料は共有ドライブ内にあるので、タブレットとネットワーク環境さえあれば、どこでも確認することができるため、非常に便利である。

← ⑩冬季休業・1月に向けての職員会議



↑本校の共有ドライブ内の職員会議フォルダ

### B.チャット機能で、職員間の連絡、情報共有

これまでの職員間の連絡は、校内放送によるものや校内電話、または職員会議や朝礼・終礼などによる直接のやり取りに限られていた。しかしながら、チャット機能を使うと、瞬時に連絡・共有をすることができる。

本校では、今年度クマの出没や大雪による下校の確認など、急遽な変更事項や指示・連絡などがあったが、チャットを使うことにより、情報を共有しやすくなった。

上記の非常時的な使い方だけでなく、落とし物や探し物、委員会の集合場所の変更や児童の欠席に関してなど、様々な状況でチャット機能を使用している。

